

高レジリエンス・システムの モデル化による検証例

形式手法の適用



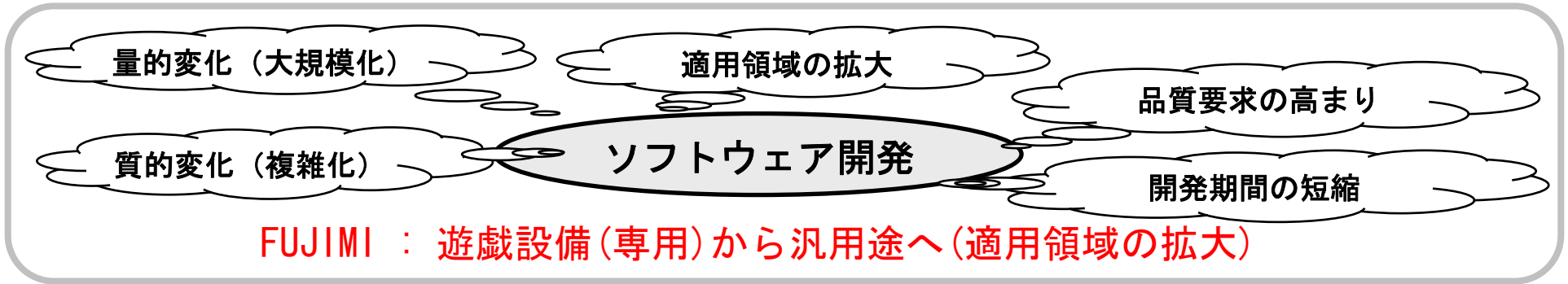
産業技術総合研究所
セキュアシステム研究部門 システムライフサイクル研究グループ

早水 公二 山形 頼之 林 伸行 大崎 人士

3. 形式手法の適用

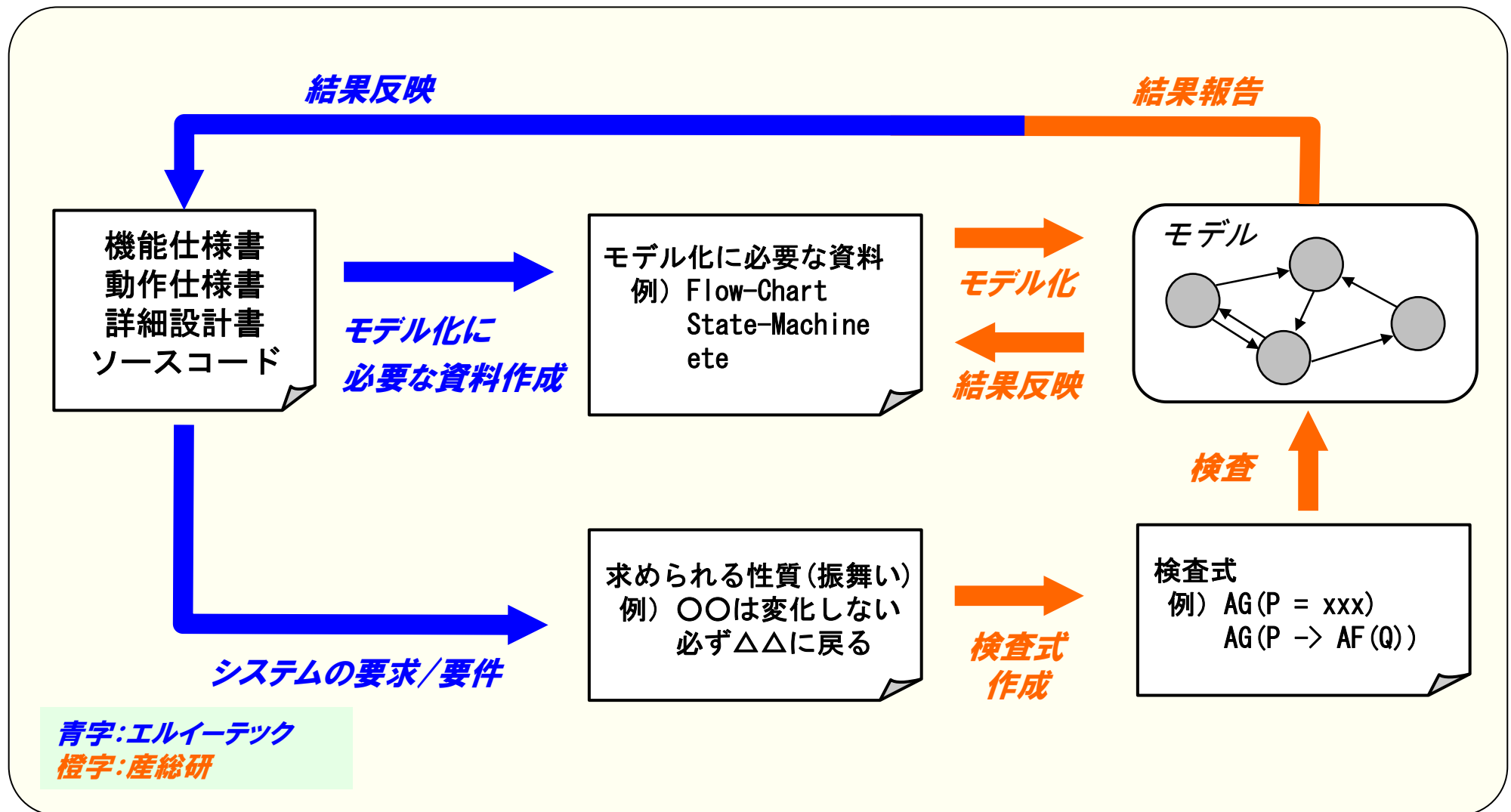
3.1 技術背景

ソフトウェア開発を取り巻く環境



3. 形式手法の適用

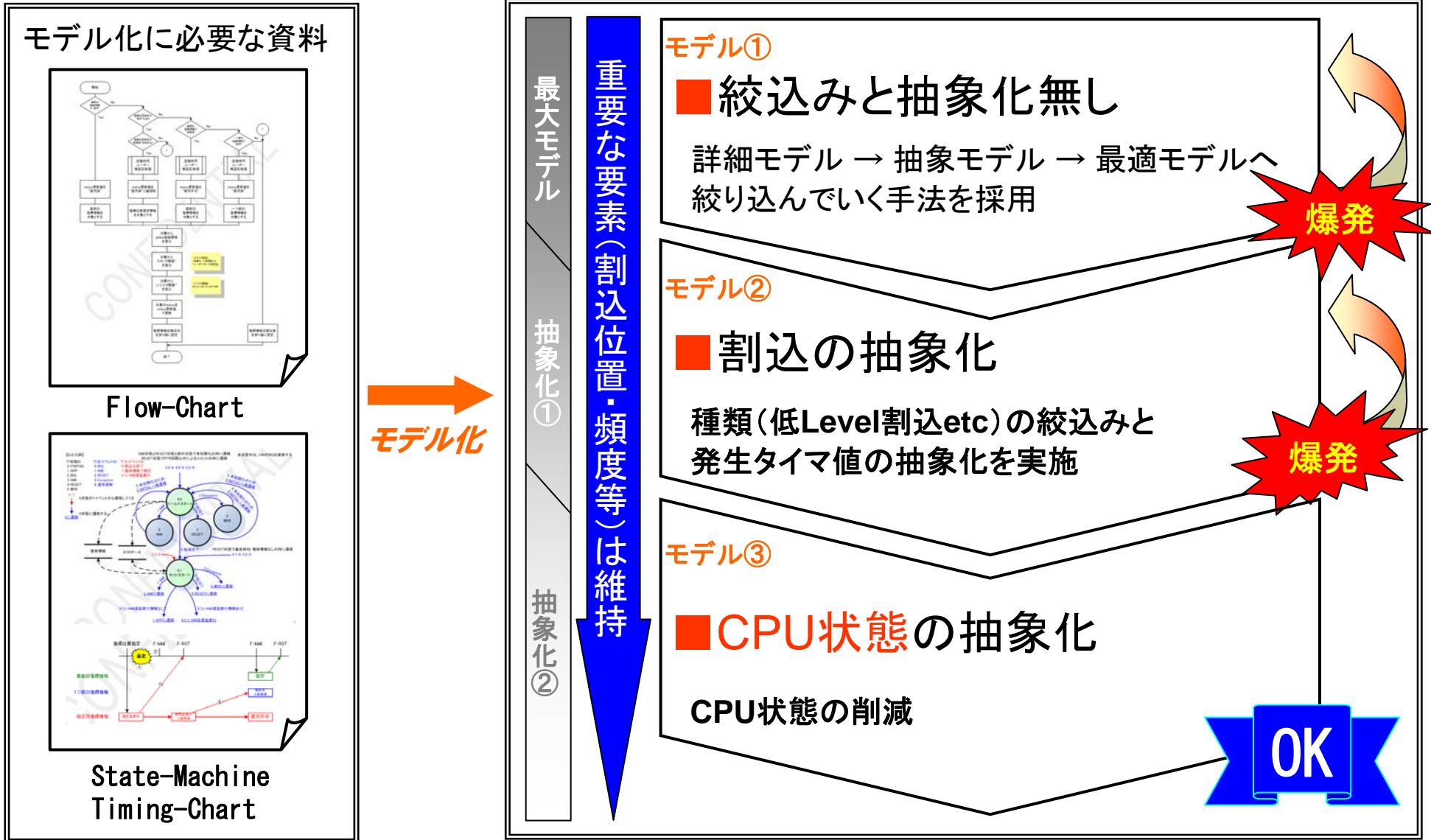
3.2 適用の流れと役割分担



3. 形式手法の適用

3.3 モデル化の進め方

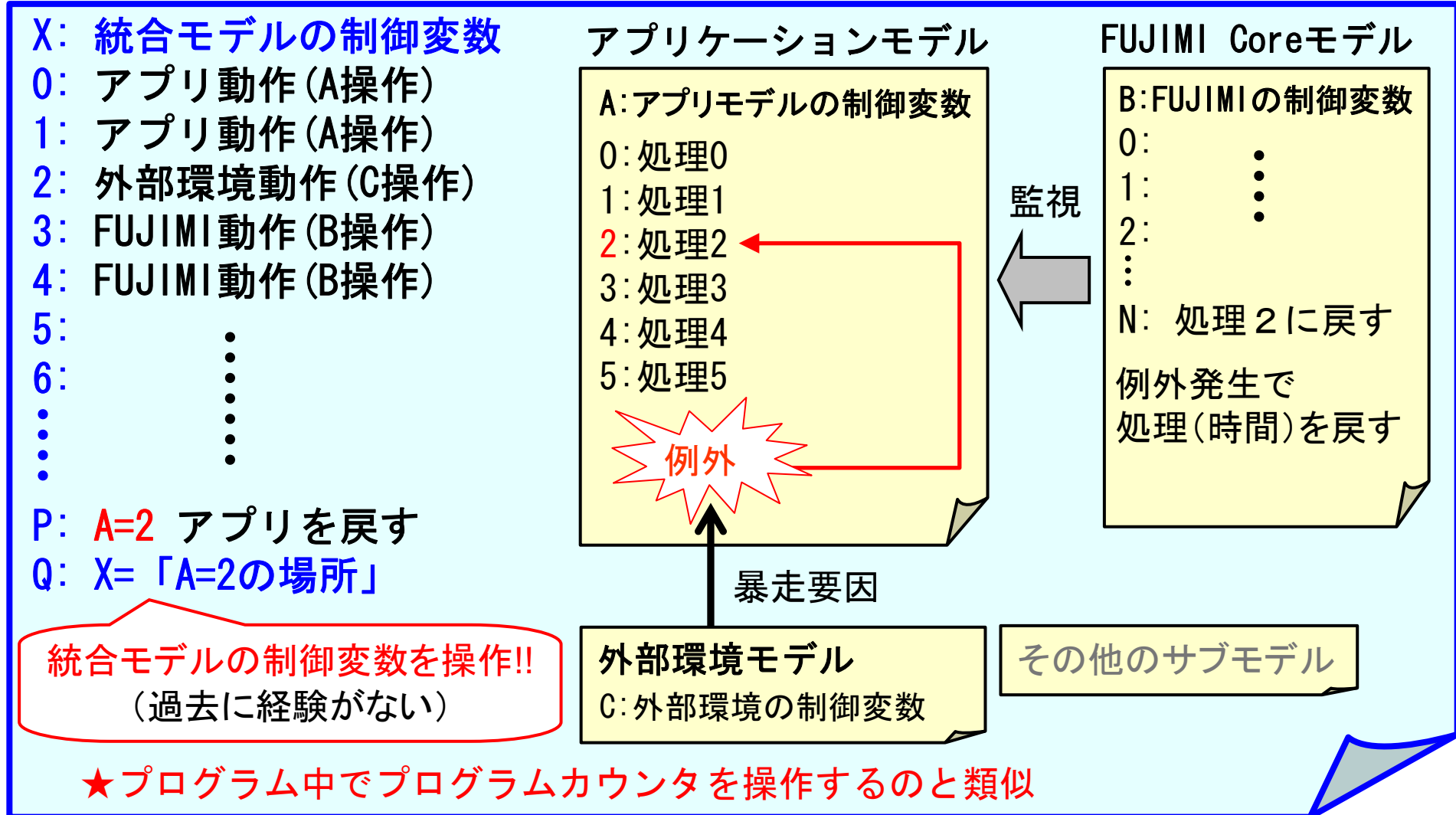
状態爆発 : モデルの状態が大き過ぎてメモリ不足が発生したり、現実的な時間で検査結果が得られ無くなること



3. 形式手法の適用

3.4 モデルの特徴（本事例では特殊なモデルを作成）

統合モデル



3. 形式手法の適用

3.5 検査項目と検査式の例

検査項目 : CPUは暴走し続けない

⇩ CTL式に変換

事前変換 : 「CPU状態 = 暴走状態」である状態が継続しない

CTL式 : !EF (EG (CPU = boso))

EF(P) : Exist Future(P)

将来Pとなることが在る

EG(Q) : Exist Globally(Q)

ずっとQで在り続ける

検査項目 → システム要件 満たすべき性質 正しい振る舞い
開発者/設計者が提示する (ドメイン知識が必要)

事前変換 → モデル検査の適用担当者が実施

CTL式 (モデル検査の知識が必要)

CTL: Computation Iree Logic
モデル検査器SMVで利用する検査式

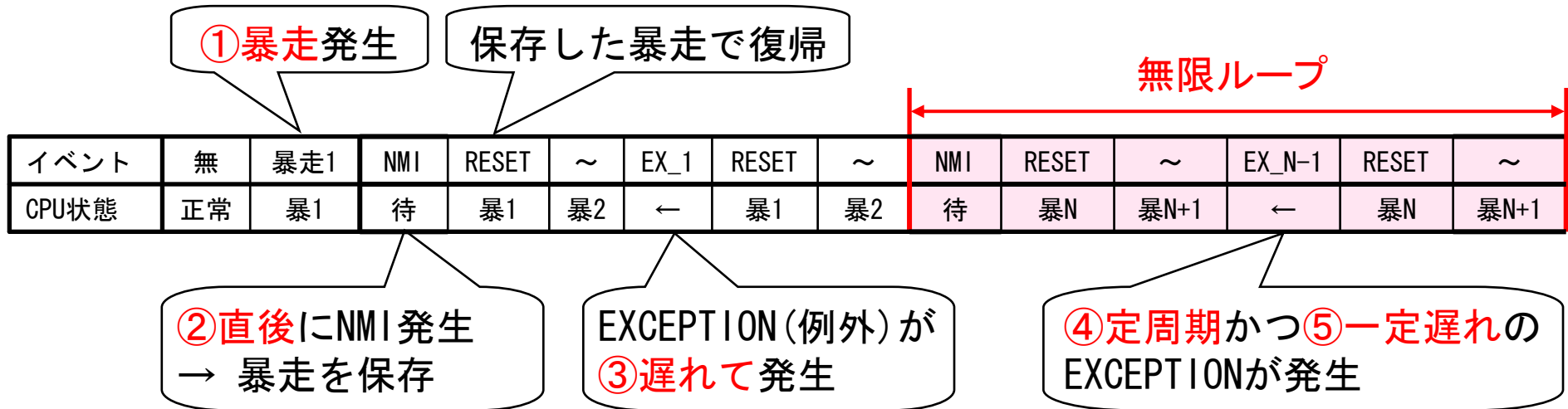
3. 形式手法の適用

3.6 検査結果の紹介（反例_2）

検査項目：CPUが暴走し続けないこと



反例：CPUが暴走し続けることがある



5つの稀なイベントが連続して発生した場合にCPUが暴走し続けることが判明

→ FUJIMIでは対応しないことに決定

(EXCEPTIONは暴走直後に発生 & 暴走の無限ループにはWatchDog Timerで対応)

⇒ 設計の参考情報として提示

3. 形式手法の適用

3.7 最終の動作確認

前ページで . . .

→ FUJIMIでは対応しないことに決定 (EXCEPTIONは暴走直後に発生する)

さらにWatchDog等によるリセット

さらに予期せぬリセット

モデルに追加

検査項目 (CPUが暴走し続けないこと) を
確認するための

■ **動作確認モデル**

モデルを改良

さらに
メモリ破壊

モデルに追加

```
!EF EG ( CPU = boso ) ==> SPECの真偽判定 : True  
所要時間   : 9112931 [ms]  
BDD Node数 : 530465968 ( 15.8 [GByte] )
```

再検査 : CPUが暴走し続けない



TRUE!!

3. 形式手法の適用

3.7 モデル検査報告書

FUJIMI マイコン モデル検査報告書

120頁～

産業技術総合研究所	
セキュアシステム研究部門 システムライフサイクル研究グループ	
Order	『止まらないマイコン検査』の汎用化のための検証事例研究
Doc. Name	
FUJIMI マイコン モデル検査報告書	

1/120

【目次】

- 第1章 概要
- 第2章 モデル検査の方針
 - 2.1 モデル化の方針
 - 2.2 検査項目の方針
- 第3章 検査対象の絞り込みと抽象化
- 第4章 モデル設計
- 第5章 検査項目と検査結果
- 第6章 総括